

# 中学校家庭科における「幼児とのふれあい体験学習」

## —アクティブ・ラーニングによる授業モデルの開発と実践—

藤井 志保 中山 芙充子 伊藤 圭子 高橋 均

### 1. はじめに

少子高齢化が進み、地域社会でも異年齢の子ども同士のかかわりが減っている現代の社会状況の中で、「幼児とのふれあい体験」は子どもたちにとって必要不可欠なものである。平成28年8月に示された中央教育審議会教育課程部会による「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」と「家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」においても、教育内容の見直しとして、家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働することや、幼児ふれあい体験など人とよりよく関わる力を育成するための学習活動を充実すると共に他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実させることが示されている。

幼児とのふれあい体験は多くの中学校で実践されているが、伊藤(2007)によれば、「クラス全体による数時間の子どもの遊びに特徴付けられ」、幼児への接し方がわからない生徒や意欲が見られない生徒の存在を指摘している。これでは、生徒は幼児との関係性を深めることが出来ないのではないかと危惧される。家庭科で実施されている「幼児とのふれあい体験学習」の学びの質を高めるためには、体験学習の在り方を再考することが必要であると考え。

### 2. 研究の目的

本研究は、中学校家庭科などで従来から継続的に行ってきた「幼児とのふれあい体験」によって、中学生が幼児との直接的関わりによって生じた課題を、解決し、「幼児とのふれあいQ&A集」を作成する一連の授業を開発実践することによって、知識の習得に止まらないアクティ

ブ・ラーニングによる授業モデルを開発し、実践的に検証することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 本校のこれまでの「幼児とのふれあい体験学習」の取り組みの課題

表1に、広島大学附属三原中学校2年生の1年間の家庭科の学習内容の流れを示す。表1にあるように、隣接する附属三原幼稚園の年中児と中学校2年生がペアを組み、年間を通じて継続的に交流する。園児の人数よりも、中学生の人数が多いために、園児1名と中学生2~3名でペアを組む。(以下その組み合わせでの園児をペア幼児と呼ぶ)1年間の学習の流れの柱を「幼児とのふれあい体験学習」とし、幼児についての学習はもちろん、衣生活、食生活と総合的に結びつけて取り組んでいる。

昨年度までは、表1の★印以外の取り組みを行ってきた。これまでの取り組みの中で課題は、次のようなことであった。

その課題とは、1年間同じペア幼児と接する良さは十分にあるが、言葉を発することが少ない幼児とペアになった場合、生徒は幼児とのふれあい方について悩み、自分自身のかかわり方に問題があると考えてしまうことである。あるいは、幼児とのふれあいに消極的で、どのように接していいかわからず、ふれあうことに楽しさや喜びを見いだせないでいる生徒もいることである。

1年間継続してふれあうことができるからこそ、「幼児とのふれあい体験学習」をより主体的、対話的な深い学びにする必要があると考えた。そこで次のような視点で授業開発を行った。

表 1 広島大学附属三原中学校 第2学年 技術・家庭科（家庭分野）の学習の流れ

月	主な学習内容	実践的・体験的取り組み	時数	希望(のぞみ)など家庭科以外の時間
4	8年生の家庭科で何を学ぶか	家族への聞き取り①	1	運動会の園児との合同演技に向けて 幼児との踊り練習など (6時間)
	幼児期をふり返ろう	幼児のイメージマップづくり	1	
5	幼児の心身の発達と成長を考えよう①		2	
	ペア幼児との出会いに向けて	役割演技などで本番のシミュレーション	1	
6	ペア幼児との出会いのふれあい体験	隣接する幼稚園でふれあう	1	
	ふれあい体験学習の振り返り	プレゼントするフォトカードの作成	1	
	幼児の心身の発達と成長を考えよう②		2	
	ペア幼児の保護者と語ろうに向けて		1	
7	★ペア幼児の保護者とのふれあい	ペア幼児の保護者と語ろう	時間外	
	幼児の生活と遊びを知ろう	幼児の食生活とおやつ作りの準備	2	
8	★Q&A集を作ろう(7月中旬)		1	
	夏休みの課題	幼児に適したおやつの実践とレポート	時間外	
9	幼児の心身の発達と成長を考えよう③		2	
	住生活について		2	
10	住生活について		2	
	衣生活の工夫 布を用いた小物の製作	幼児のための布選びと基礎基本の技能の習得	2	
11	幼児の心身の発達と成長を考えよう④	家族への聞き取り②	2	
	★幼稚園の副園長先生と話そう	幼稚園の副園長先生にお話を聞く	1	
	★Q&A集を作ろう(11月下旬)		1	
12	幼児に適したおやつを作ろう	幼児向けのおやつの調理実習	2	
1	冬休みの課題	幼児のためのバンダナのデザイン考案と製作	時間外	冬休み
	ペア幼児のためのバンダナ製作	幼児向けのバンダナの製作	4	
2	幼児についての学びをふり返ろう	写真や文章で振り返る	2	
	ペア幼児へバンダナをプレゼント	ビデオレターで気持ちを伝える	時間外	昼休憩
3	8年生の学びのまとめと9年生に向けて	ペア幼児の家族よりメッセージが届く	2	

## (2) 生徒の学びを深める「幼児とのふれあい体験学習」の授業開発の視点

幼児とのふれあい体験の中に、課題発見→課題解決に向けた実践活動→実践活動の評価・改善という一連の学習活動を組み込み、さらにはその学習活動が「主体的であるか」「対話的であるか」そして結果として「深い学びを実現できているか」というアクティブ・ラーニングの3つの視点を意識して授業開発を試みる。

具体的な取り組みと開発の視点は次の通りである。

- ① ペア幼児とのふれあいの中で、感じたことや悩み、分からなかったことや不安などを問いにして、その答えを自分たちで調べ、自分の家族や幼児の保護者へのインタビュー、幼稚園教員へのインタビューなどで構成することとした。その成果物は、子どもたちが自分自身のふれあい体験のまとめとすることと同時に、「幼児とのふれあいQ&A集」として来年度の後輩たちが、今年度と同様に幼児とのふれあい体験を行うときに活用する。
- ② 衣生活とも結びつけて、市販のバンダナハンカチに、ペア幼児の名前や好きな絵などを

繡して、1年間の終わりにプレゼントする。

これは、ペア幼児が毎日の弁当を包む時に使ってくれるだけではなく、耐久性のあるものを製作して、将来においても使ってくれることを思いながら作る。よって、秋以降は直接かかわることが難しいが、このバンダナ製作において、ペア幼児のことを思い描く時間をとることにした。

## 4. 授業開発の概要

### (1) 授業仮説

本授業では、「生徒が『幼児と向かいあう』だけや『幼児の心身の発達を学ぶ』だけの学習ではなく、主体的・対話的な学びを取り入れることで、ここに存在する自分の幼い頃を振り返り、これまで多くの人に支えられてきたことに気づき、自分の未来を志向できるような深い学びができるであろう」という仮説をもとに授業開発を試みた。

これらの授業実践を主に生徒の取り組みの姿やワークシートなどの記録、さらにはQ&Aなどの成果物をもとに分析した。分析の視点は表2のとおりである。

表2 幼児とのふれあいを通して生徒がめざす具体的な姿

主体的か	対話的か	深い学びの実現が可能か
<p>幼児とのかかわりにおいて、課題を発見して自ら改善を試みているか。</p> <p>幼児の保護者や幼稚園の先生との会に向けて、見つけた課題をもとに準備を積極的にやっているか</p>	<p>幼児とのふれあいにおいて相手の立場になってかかわり方を工夫しているか。</p> <p>グループの仲間やクラスの仲間と共に課題解決に向けたコミュニケーション活動に対して積極的であるか</p>	<p>幼児とのふれあいから見出した課題をもとに自分の幼い頃をふり返り、これまで多くの人に支えられて成長してきたことに気がつき、これからの自分を考えることができているか</p>

## (2) 授業開発

### 1) 本題材の意義

この体験は、幼児の心身の発達を学ぶことだけではなく、実践的体験的に幼い子どもへのかかわり方を学び、それを通して人への思いやりや温かな心を育むことができるものである。幼児とのふれあいを柱として衣食住の学びとも総合的に関連させた。さらに幼児の家族や幼児教育に携わっている大人の方々からも学ぶ機会を設けた。そのことにより、人が育つことの意味を広く学びながら、これまでの自分そして家族の存在さらには地域社会をも見つめ、自立と共生の視点から今後の自分の生き方にもつなげることで大意義のある題材である。

### 2) 生徒の実態

生徒は広島大学附属三原中学校8年生81名で、実施時期は平成28年4月～平成29年3月の1年間である。隣接する幼稚園のペア幼児とは1年間で10回以上のふれあいを体験する。幼児との交流に関しては、9割の生徒が楽しく積極的に取り組んでいるが、半分の生徒は幼児とふれあうことは難しいと考えている。昨年度の家庭科では、食生活の学習の中で、高齢者向きの食事を作り、地域の高齢の方々をお招きしての交流会を実施した。この時も課題を解決しながら「誰かのために何かを作り、相手の喜びが自分の喜びにもなる。」という体験ができた。その体験は、幼児とのふれあいや幼児の家族とのコミュニケーションにも生かそうとする姿があった。

幼児とのふれあいに関して、授業の中での意見交流を取り入れ、お互いの意見を認めあえる受容的な雰囲気作りを大切にする。また課題解

決学習の過程において、「なぜ～なのか」「～するためにはどうしたらよいか」など、幼児の成長に関して根拠をもって解決していく中で、自ら学ぶ意欲を持ち、積極的に学んだことを発信していこうとする共に高まりあえる集団をめざしながら取り組んだ。

### 3) 指導上の留意点

指導にあたっては、幼児とのふれあいを総合的に捉え、題材全体を通じて課題対応の視点を取り入れ、次の4点に留意した。

- ① 幼児への理解を深め、その成長を支える家族という視点も大切にするためにペア幼児の家族と話す機会を作った。(6月)
- ② 活動の過程において疑問に思ったこと Question として書きとめておき、その Answer を追究する活動を題材全体で行い Q&A 集を残すことにした。(7月)
- ③ 衣食住の学びにおいても、幼児のための小物作り、幼児のためのおやつ作り、幼児や高齢者が生活する住環境というように幼児についての学びを柱として題材を構成した。
- ④ 題材全体を通じて、Question を解決するために、文献だけでなく、幼稚園の先生に話を聞いた。さらにその学びを仲間同士でフリップボードにまとめて、意見交流するなど、体験的な活動になるようにした。(11月)

こうした指導を通して、生徒が主体的・対話的に学び、自ら発見した課題を解決し、これからの生活に生かすことができるようにした。

### 4) 授業の実際

#### 〈ペア幼児との出会い〉5月



図1 ペア幼児との出会いの場面

図1は初めてペア幼児と出会う場面である。中学生は、園児がつけている名札を見ながらペア幼児をドキドキしながら探している。4歳で

ある年中児も、緊張しながら声をかけてもらうのを待っている。

自分のペア幼児を見つけたら、ゆっくりと話しかけて、自己紹介をしているグループが多かった。ペア幼児によっては、元気に走り回る子、固まってしまったりうつむいている子など様々な反応であった。



図2 ペア幼児に自己紹介する場面

#### 〈運動会に向けてのダンスの練習〉5-6月

この活動は、家庭科の授業ではなく、「希望(のぞみ)」という本校が文部科学省の研究開発で取り組んでいる新領域の時間の取り組みである。なりたい自分を思い描きながら、幼児とのかかわりの中で自分自身を見つめるので、家庭科の時間の学びをさらに「希望(のぞみ)」の時間と関連付けることで、より深い学びを実現することができている。



図3 幼児にダンスの踊りを教える場面

#### 〈ペア幼児の保護者とのふれあい〉6月

幼児を理解するには、その子の成長を日々支え、導いている家族の存在が重要であることは言うまでもない。しかしながら、生徒たちはその家族の存在にまでは思いが至らない場合が多い。そこで、2度の交流(ペア幼児と出会いそして踊りの練習)をした後で、ペア幼児の家族と中学生が語り合う時間をとることにした。これは、園児の家族が幼稚園に園児の迎えに毎日

来られるので、その時の20分間で「ペア幼児さんの家族と話そう」という会を生徒が企画することにした。生徒が保護者へ聞こうと作成した話す内容やペア幼児に関する質問(Question)には次のようなものがあった。

#### ペア幼児の家族への話の内容や Question

- ・自分たちの自己紹介をする。
- ・実際に2回ふれあってみてのペア幼児の様子やエピソードと共に感想を伝える。
- ・ペア幼児の好きなもの(本・テレビ番組・キャラクター・食べ物・色など)は何か。
- ・家での家族とのかかわりや生活の様子など(どんなことをして遊んでいるか)
- ・兄弟姉妹の存在やそのかかわりについて。
- ・ペア幼児が誕生した時の様子やどんな人に成長してほしいと考えているか。
- ・名前にどんな願いをこめて命名されたのか。
- ・子育てをされる上で大切にされている事は何か。
- ・子育てをされる上で大変なことや苦労は何か。
- ・ふれあってみて困ったことやどのように接していか分からないことを聞く。
- ・ダンスの練習をしてみて、うまくいったことやいかなかったことを伝えその時のかかわり方などを質問する。



図4 ペア幼児の家族と話す場面

また、この会を企画する時に、園児のクラスの担任の先生との連携もが欠かせなかった。家族の中で、その日は祖父母の参加になる場合や、時間がどうしても合わない場合など細やかにその家族に応じた対応をした。ペア幼児と中学生のかかわりさらには、その中学生が家族とかかわる姿を通して幼稚園教諭の立場から述べる。

中学生と幼児の家族とのかかわりを通して、保護者の中学生との交流に対する意識の変化が見られた。中学生との対話後、保護者からは、「ペアのお兄ちゃんが、我が子のことを一生懸命考えてくれていることが伝わり感動しました。何より、2回しか交流していないのに、我が子のことをとても理解してくれていて驚きました。」「中学生さんからの質問を受けて、改めて子育てについて考えるよい機会になりました。」などの声が聞かれた。実際に保護者が中学生と対話し、幼児とのかかわりに対する中学生の悩みを聞くことで、保護者自身が中学生の我が子への温かい思いを感じ、中学生と幼児がかかわる意義やよさを感じていった。さらには、中学生から質問を受けることで、自分の子育てについて振り返り、我が子へのかかわりを改善しようとする姿も見られた。

また運動会当日、次のような事例が見られた。

運動会当日、体調が万全ではない幼児が一名いた。その幼児の保護者が、「体調をみると、一つの種目だけは出られそうだ。どうしても出させてあげたい種目がある」と選んだ種目が、中学生と踊る「お兄さんお姉さんと一緒に」であった。幼児もペアの中学生と踊れたことを喜び、とても満足していた。

運動会后、どうしてその種目を選んだかを保護者に聞くと、「中学生のお兄ちゃんと話しをし、我が子に対して一生懸命かかわってくれていることが伝わってきた。我が子もお兄ちゃんと出たがっていたし、お兄ちゃんがここまで頑張ってきてくれたその思いに私も応えたかった」と教えてくれた。

この保護者は、親子で練習してきた踊りよりも中学生との踊りを優先し、迷うことなく選んでいた。保護者の言葉からも分かるように、中学生との対話を通して、保護者が中学生の我が子への思いを理解するとともに、中学生の思いに応えたいという心のつながりができていた。

子ども同士の異年齢のふれあいにとどめず、保護者との対話の場面を作ることで、保護者自身が我が子だけでなくペアの中学生へも心を寄せて、ふれあいを見守り応援する姿勢に変わっていた。また、年中児はまだ自分の思いがすべて言葉にならない時期であるだけに、普段の幼児の様子や思いを保護者が中学生に代弁することで、中学生側の幼児理解が深まる。さらに、年中児自身が保護者から中学生の思いを聞くことにより、中学生への親しみや信頼が深まると



## さくら組だより

平成28年6月17日 NO.20 担任：中山 美寿子

### いよいよ運動会!

いよいよ明日が運動会となりました。先週から、朝から入場行進、ラジオ体操、踊りにかけっことフル回転で練習。少ない遊び時間も、木のお家でこっこ遊びをしたり、ここぞとばかりに元気に外で走り回ったりして遊んでいる子どもたちです。本当によく頑張っていますよ。

〈お兄さんお姉さんと一緒に～8年生さんのかかわり～〉

先週、中学校の先生から「アンパンマンとバイキンマンとショクパンマンが来てくれるよ」という連絡がありました。さくら組さんに伝えると大興奮！期待を膨らませて中学校のグラウンドに向かいました。「アンパンマンー!」「ショクパンマンー!」「バイキンマンー!」と呼ぶと3人が登場!「本物じゃ!」「動いとる!」「おっさいね!」と大喜び。アンパンマンたちの登場で、やる気も倍増!元気に歌いながら頑張る姿が見られましたよ。

運動会では、さくら組さんもお面とマントをつけて、一緒に踊ります。お面やマントをつけたりはすしたりしてくれるのも8年生さんです。ときには恥ずかしくて顔をしっかりと見られない空や、嬉しすぎて甘えてしまう姿もありますが、8年生は常にさくら組の子どもたちの視線を合わせ、顔を見ながらやさしくかわってきてくれました。きっとお家の方との交流会でいただいたアドバイスを心に思い浮かべているからこそ、どんなときも真摯にさくら組さんにかかわろうとする姿勢に表れているのだろうと感じています。

「アンパンマン」の踊りでどのようにふれあいながら踊るのか、しっかり見てくださいね。



アンパンマン






「ペアさんの家族と話そう!」へのご協力ありがとうございました。交流後、「まだ2回しか交流していないのに、ペアのお兄ちゃんが我が子のことをとても理解してくれていて驚きました。」「改めて子育てについて考える機会になりました。」などの声を聞かせていただきました。

運動会に向けての諸準備、係の運営、テント張り等は小学校6年生や中学校8・9年生が中心となって時間をかけながらすすめてくれています。そんなお兄さん・お姉さんの姿にふれ、「かっこいいな」「あんなんふうになりたいな」というあこがれの気持ちももちながら子どもたちも大きく成長していき、やがてはみんなのために動こうとする力を発揮するようになってほしいと願います。

図5 幼稚園の保護者への通信

感じている。このように保護者の変容や異年齢の子ども同士のかかわりの深まりからも、中学生と幼児の保護者との対話は、意義あるものだと考えている。図4は、幼稚園の保護者にその様子や声を伝えたものである。

#### 〈幼稚園の副園長先生と話そう〉11月

夏までの幼児とのふれあいの中で学んだことを生かしながら、秋以降は幼児の心身の発達について学びを深めていった。特に、「生活習慣はどのようにして身につくか」という問いをもとにさらに幼児についての理解を深めていくことにした。次のような流れで学習に取り組んだ。

- ① 基本的な生活習慣とは何かを学ぶ。
- ② 食事・睡眠・着脱衣・清潔・排泄に関する自分の家族へのインタビューをする。(調べ学習)
- ③ ①②の中から疑問に思ったことやさらに深めたいことを、幼稚園の副園長先生に聞く。
- ④ 幼児の基本的な生活習慣が身に着く過程で大切なことは何かを話し合う。

授業の中では、絵本の一場面（女の子がおでかけ前に、お母さんが作っているお弁当の食材をつめようとしてテーブルの上に、色々な具をぐちゃぐちゃにして広げてしまう）を提示して、どのような声かけをするかを話し合った。絵本とはいえ、実際にもありそうな場面で、この場面でどう声をかけたらいいかについては、生徒たちの考えも様々で、興味深い材料であった。この活動では、基本的な生活習慣が身に着く過程での大人のかかわりについても、活発に論議して話し合うことができた。

また、基本的な生活習慣そのものについても各グループで調べ学習を行った。そして、自分の家族へ自分が幼い頃、どのようにして基本的な生活習慣を身につけたか、大変だったことや幼い頃のエピソードなどをインタビューしてくることにした。

生徒たちは、このような機会に今まで聞いたことがなかった子育ての苦労や喜びなども聞くことができるいい機会となった。

そうした上で、隣接の幼稚園の副園長先生に、図6のようにグループごとにインタビューをする取り組みを行った。副園長先生は、これまでの体験の中から、色々なエピソードを子どもの立場になって、豊富な例を出しながら語って下さった。中学生は、どのグループも、短時間で深く学ぶことができていた。このことは、生徒が事後に書いた感想文からもうかがえる。



図6 幼稚園の副園長先生にお話を聞く場面

## 5. 考察

### (1) 第1回目のQ&Aの記載内容について

表1の学習の流れにあるように、5月にペア幼児に出会い、交流を積み重ね、ペア幼児と踊る運動会の合同種目を終えた後、ペア幼児とのふれあいを振り返りながら、Q&Aを書いた。全員分の232個のQ&Aができた。これを表3表4に示す。生徒たちが書いたQuestionとAnswer

を概観すると、幼児とのふれあいの中でどんな喜びがあり、どんなことに困り課題として受け止めていたかがよく分かった。

まず、Qについては、表3のように分類することができた。カテゴリーIにあるように、全体のQの90%以上が、幼児とのかかわり方をどのようにしたら良いかというものであった。また、運動会に向けてダンスを一緒にする場合のかかわり方に関するQが全体の約20%であった。

これは、ただふれあうだけではなく、運動会という場で園児と共に踊るという大きな目標があるために、このようなQをたくさん書きだしたと考えられる。そして、ダンスを園児に教える時に多くの生徒が、戸惑い、どのようにすると踊ってくれるのだろうか悩んだことが分かった。

また、ダンスに限定していないが、かかわり方の中で一番多かったQは、困った時の対処法である。特に園児が思うように反応してくれないという場合の問いを考えた生徒が多かった。これは、園児との人間関係を築いていく過程で、多くの生徒がよりよいかかわりをしようと努力した結果であると考えられる。

さらに、そのAnswerを分析してみると、表4に一例を示したように、ペア幼児とのかかわりの中で、自分が困ったことや難しかったことを、色々な方法で解決しながらそのAnswerを導き出していることが分かる。そのAnswerの根拠を具体的に、「園児さんの保護者に聞いた話」をもとに書いていた生徒も多かった。園児がなかなか自分に心を開いてくれないときに、保護者の方に聞いた園児の好きな物や遊びなどを話題にして、何とか園児とのコミュニケーションを深めようとしたことが分かった。

また、「私のペアさんは～だから」というように、実際にふれあって体験をもとに書いていた生徒がほとんどであった。しかし、このたびの体験だけではなく、「話はただ言わないでまとめたほうがいい」「砂をかけてくるのは一緒に遊びたいから」というように、これまで自分が人とふれあった経験知に、授業で学んだ幼児の発達段階のことも織り交ぜて書いている生徒もいた。そして、さらにかかわりを充実させるためにどうしたらよいかという視点で書いている生徒も多かった。

表3 幼児とのふれあいに関する第1回目のQ&A (Questionの分類) (7月実施)

カテゴリーⅠ	カテゴリーⅡ	カテゴリーⅢ	Qの数
(一緒にダンスをする場合の) 幼児とのかかわり方	どのように教えたり共に踊ったりするとよいか	ダンスの教え方踊り方	51
(ダンスに限定していない) 幼児とのかかわり方	困った時にどうしたらいいか	反応がない、薄い時の対処法	16
		思いようにならないときの対処法	16
		泣いている時の対応	10
		緊張のほぐし方	6
		出会う前の不安など	3
		注意の仕方	3
		砂いじりの注意の仕方	3
		暑い時の接し方	3
		指しゃぶりへの対処法	2
		静かにしてほしい時の対処法	2
		癪の注意の仕方	2
	いたずら 暴力への対応	2	
	話を聞いてほしい時	1	
	転んだ時の対処法	1	
	甘える時の対応	1	
	どのように接するとよいか	コミュニケーションの取り方	31
		出会いの時の接し方	10
		関わるときの注意点やポイント	5
		幼児の気持ちを知りたい	4
さらにかかわりを充実させるには	遊び方に関して	3	
	教え方	1	
	笑顔 楽しませる喜ばせるには	19	
	また会いたい遊びたいと思ってもらうには	10	
	やる気を出させるには	5	
幼児の心身の特徴について	幼児の心の発達	幼児の個性を知りたい	1
		幼児の特性を知りたい	5
幼児の心身の発達について	幼児の体の発達	水分補給	4
			1
ルールの守り方	社会的な生活習慣を身につけさせるには	決まりやルールをも待ってないときの対処法	4
同級生とのかかわり	同じペア幼児の中学生同士のかかわりについて	中学生の関係のありかた	4
その他	運動会のこと	運動会の種目の内容	2
			232

表4 幼児とのふれあいに関する第1回目のQ&Aの一例 (7月実施)

Question	Answer
何を話したら反応してくれるのか。	園児さんが無口で何も話してくれないときは園児さんの保護者に聞いた好きな遊びや好きな物をテーマにした話をして反応してもらおう。その後は「今ダンスを頑張ったら後で〇〇で遊ぶよ」などと声をかけることによってダンスに取り組んでくれる。園児さんの好きなことを話に持ちかけることによって心づくむことができるのでその後も反応してくれるようになる。
どうしたら笑顔になれるのか。	例えばペアさんがあまり話してくれない子だとします。話しても笑顔になってくれず、応答もしてくれません。そういうときはちょっと、こちょこちょをしたらいいと思います。理由はどこかすぐぐつたら、最低でも、フツツと笑顔で反応してくれます。それにのっかって、「今日楽しみ？」などと聞くと必ず笑顔で反応してくれます。私のペアさんは、ちょっと恥ずかしがり屋で、話しかけても、あまり反応はしてくれませんでした。私でも、初めての人だったら、緊張します。でも、そういうちょっとしたイタズラ心がペアさんの心もゆるぐはずですよ。その後、ペアさんも笑顔でダンスなども行ってくれるようになりました。ずっと、こちょこちょをするのは、かわいそうだから、だんだんペアさんも心が開くと思うので、次は話しかけるだけにしようなど、見通しをもって、ペアさんとのかかわりを大切にしましょう。
初めてあった園児さんと話はなんですか。	園児さんは、朝6時30分～9時30分までのアニメや戦隊ものをみています。なのでようかいウォッチや仮面ライダー(男の子)プリキュアやアイカツ(女の子)プリパラなので園児さんがよく見ている番組を話す。最初はやっぱり自己紹介が必要なのでしゃがんで園児さんみえやすいところで話すと名前をおぼえてくれる。好きな物とかも聞く。
他のことに夢中になって話を聞いてくれない。	まずはその他のことについて興味を持ってあげよう。もし、その話が盛り上がりすぎてしまったら…「ちょっとお姉ちゃんの話聞いてくれる？」と園児さんにきいてみよう。その話したいことはあんまりダラダラ話さずまとめて言ってみよう。ダラダラ話すと、園児さんも集中してくれなくなっちゃうから、なるべくまとめてね。
過剰に甘えてきたらどうしたらいいのか。	なかよくなつて、甘えてくる園児はたくさんいます。自分たちにとっては嬉しいことですが、集まるときや、じっとしている時はやめてほしいですよ。そういうときに厳しく注意しても、またすぐ甘えてくるのが園児さんです。だから「みんな静かにしてるよ。〇〇ちゃんも出来るよね？」と少しプレッシャーをかける、静かに、じっとしていられます。そして、静かにできたらしっかりと褒めてあげます。すると、次からもちゃんとしていられます。甘えてくるのは決して悪いことじゃないのよ。
園児さんが暴力を振ってきたらどうしたらいいか。	園児さんと触れ合っていると、園児さんがうれしくなって、自分たちは何もしていないけれど、暴力を振ってくる場合があります。私もそのとき、嫌われたくなくてあまり怒りませんでした。しかし、そうすると、もっと暴力を振るってきて、話を聞いてくれないことがあるから、何回もしてくるようであれば！一回倒れたフリ、又は痛そうなフリをして少し園児さんに伝えるのも1つの方法です。演技が難しい場合は、厳しく注意すればいいと思います。
園児さんが笑顔で踊るにはどうすればいいか。	この質問には、答えには必ずこれと言うものはありません。一人ひとりに1つずつ答えはあります。私の答えは「園児さんの成長見守り心の動きを尊重する」です。様々な不安が私たちの歳になると発生します。しかし園児さんのようにまだ自由な心を持っている時期には、素直です。それも非常に。だからしっかり見守り、しっかり導いてあげれば、自分の成長に喜びを感じることができます。自由なものには自由な心で接することが大切です。
初めて園児さんと出会ったときに元気がなかったら。	園児さんが見知らぬ人と出会った時にすぐ笑うと言うのはない。だからまずは距離を近づけると言う意味で名前を呼ぶという行動が効果的だと思う。「名前を呼ぶ」と言うのは親しい中での行為である自分も考えます。つまり名前を呼ぶことで、自分は相手に対して友好的である、と言う気持ちを示すことになるので意外とすんなり心開いてくれると思います。
園児さんのいたずら等々に対してどうすれば我慢できるか。	これは正確には我慢とは言えないかもしれませんが。例えば園児さんが砂をかけてきたとします。この園児さんの行動はただ単に一般的に言う嫌がらせとは違い、相手の気持ちを引きたい、一緒に遊びたいのです。この場合、結果を考えると園児さんがこの行動をやめるのは、遊びたいという目的を達成した中での行為です。つまり園児さんの「遊びたい」と言う気持ちを尊重し安全な遊びにつきり(砂を投げる＝楽しい)から引き離すことで結果的には、両者の心を尊重することができます。

表5 幼児の基本的生活習慣を中心に幼稚園の先生に質問した Question (11月実施)

カテゴリー I	カテゴリー II	Question
幼児と関わるときに大切なこと	接し方についての基本的な姿勢	幼い子に接する中で一番大切なこと
		子どもと接するうえで大切なことは何ですか
基本的生活習慣習得の過程で大切なこと	大切なこと 必要なこと	幼児と接する時に大切なことは何ですか
		面倒を見るときに特に気をつけないといけないことは何ですか
		基本的生活習慣を身につけるにあたって一番大変なこと
	どのように	基本的生活習慣を身につけるために大切なこと
		基本的生活習慣を身につけるために必要なことは
		基本的生活習慣はどのようにして身につくか
		基本的生活習慣を身につけさせるためにどうするか
基本的生活習慣 具体的な方法	生活習慣を身につけさせるにはどうしたらいいですか	
	多くの幼児さんにとって最も身につけることが必要な基本的生活習慣は	
5つの基本的生活習慣について習得の過程での周囲の大人の援助の方法など	食事の習慣	基本的生活習慣のアニメなどを見せたりしますか
		食べ物の好き嫌いをなくす上で工夫することは
		好き嫌いをなくすには
		園児の好き嫌いについてどうしたらよいか
		どれくらい練習したら一人で食べられるようになるか
	睡眠の習慣	このような場面(絵本のある場面)でどうするか
		夜中に泣き出したらどう接するか
		暗くてこわくて眠れないときは電気をつけたまま寝させてあげるべきですか
		まくらもとにぬいぐるみを置いていたという人が多いのですがそれはどうですか
		子どもが夜眠れないという話を聞いてどんなアドバイスがありますか
	排泄の習慣	夜が怖くて眠れない場合はどうすればいいですか
		幼児の睡眠について怖い以外で困ることはありますか
		昼寝をさせるときに大切にしている事 昼寝の意味は何ですか
		幼児さんが失敗した時に(排泄)どんな声をかけるとよいか
		どうやってトイレにいかせるようにするか
	清潔の習慣	排泄に関してどんな失敗がありますか
		その時にどんな対処をすればいいですか
		幼児さんが排泄するうえでの悩み困ったことは何ですか
		幼児さんがは排泄する後や前にどのような声かけをしているか
		なかなかトイレに行きたがらない場合はどうするとよいか
着脱衣	集団の中で清潔の習慣ができる子とできない子にどう接すればよいか	
	手を洗わない園児がいたらどう教えるか	
	清潔の習慣を教えるにはどんな大変なことがありますか	
	清潔の習慣ができるようになった時の喜びはありますか	
	幼児に脱ぎ着を興味を持たせるにはどうしたらいいか	
具体的な課題への対処法	つまずきへの対応	うまいかななかった場合にどんな援助をすべきか
		プールなどで着替える時に一人遅れている子がいたら時間内に終わらなくても次の活動へ行くのか
	個性への対応	もしも自分でできなかつたらできるまで待ってあげた方がいいか
		幼児のつまずきの中で一番多いつまずきは何ですか
	好奇心旺盛な子への対応	園児さんのつまずきに対してどのような声かけをするのがよいか
		様々な子どもたちとかわる中で個性とどう向き合っていくか
	わがままへの対応	好奇心旺盛な子と接するうえで大変なことはありますか
		子どものわがままをどの範囲まで聞けばいいか
外遊び嫌いの対応	外で遊びたくない子にはどうしたらよいか	
	泣くことへの対応	いきなり泣き出す子への対処法
褒め方 叱り方 声のかけ方	うそをつくことへの対応	泣いた時の対処法
		うそをつくことについてどう対応したらいいか
	褒めることと叱ること	「ほめること」「叱ること」どちらに重点を置くか
		どんな場合にちゃんとしかるべきか どんな場合にほめればいいのか
	叱り方 注意の仕方	子どもがやったことが親にとってダメだった時に怒るのかほめるのか
		どんな場合に怒ったりほめたりしますか
		本気で怒りたいと思った時にどうしますか
褒め方	怒ったことについて 怒り方について	
	1回教えてできなかった場合に叱るべきでしょうか	
声のかけ方 接し方	園児さんが悪いことをしたときにどのように注意すればよいか	
	褒めときのポイント	
NGワード	言ってはならない言葉 やる気をなくす言葉	子どものやる気を起こさせるにはどのような声かけをしたらよいか
		どんな声掛けが必要ですか
幼児の心の発達について	気持ち 感じ方	幼児さんとはどういう接し方がいいですか
		幼児さんに言ってはならないこと
その他		幼児のやる気をなくすようなNGワードは何ですか
		幼児の感じる達成感について知りたい
		自分たちの幼稚園の頃ののことを教えて下さい
		幼稚園の先生をされていて大変だったことは何ですか
		幼児と接する時に大変だと思うことは何ですか

<p>幼児はどんなに小さいことでも できたら達成感を味わおう!</p> <p>金岡先生 → 「ボタンを自分で止めるなど、どんなに小さいことでも、できたら幼児は喜ぶます。」 坂田(母) → 「つつい何でも手助けしたくなるが、どんなに時間がかかっても一人でできたという達成感を味わうことは大切だと思います。」</p> <p>★ 幼児が一度達成感を味わうと、新しいことをしようと意欲的になれる! 大人の支えも必要。一緒にがんばる</p>	<p>排泄の習慣を身につけるために必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけをする (周りに人がいないと不安な子がいる)</li> <li>・安心できる環境をつくる。 (トイレが怖いと思う子がいるので花や明るい電気を付ける)</li> </ul> <p>自分も小さい頃は思っていた</p>
<p><b>基本的な生活習慣を身につけるには、周りの環境作りが大切!</b> by 親</p> <p>習慣というのは、すぐに出来るものではなく何度も繰り返さないと出来ないと思います。だから、小さい頃から周りの大人がお手本となったり楽しみながらやったり、身につけるための環境作りが大切なんだな、と思いました。</p>	<p>○絵について by 金岡先生</p> <p>初め「わーびっくりした」驚く </p> <p>↓ 子供の様子をうかがう 気持ちをくみとる</p> <p>↓ イタズラ心なら叱る (アドバイス) ただ手伝いたいという気持ちなら誉める</p> <p>子供の気持ちを考えてあげることが大切だと思ふ。</p>
<p>Q 園児さんに言ってはいけない言葉は?</p> <p>A (園児さんに言ってはいけない言葉 3選)</p> <p><input type="checkbox"/> うるさい!</p> <p><input type="checkbox"/> 何でできないの</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 早く!(強めに)</p> <p>どれも言われて傷つく言葉ばかりです。私は、兄弟のダンスで最初の入場の時、前の人と間があいていたので早くおせりました。たけな、1つの単語を言うだけなくて「○○ちゃん、早く歩こう」など優しく、はっきり言ったら園児さんもよく聞いてくれました。意識していないとできないことなので、相手に対して臨機応変に対応しないといけないな、と思います。☑は園児さんがなかなかダンスを覚えられなくても、がんばって教えていけばいつか踊ってくれると思います。言い方も、少し前かがみになって園児さんの目線に合わせて言うと、より押しやすいです。</p>	<p><b>金岡先生から学んだこと</b> (睡眠について)</p> <p>○昼寝は、幼児の心を安定させ、成長させるために大切なことである。</p> <p>↳ 昼寝の際はそれぞれの環境を整え、快適に眠れるようにしてあげる。 (興奮した状態は×)</p> <p>Q 幼児さんが泣いてしまった時は… 泣いているのには何か理由がある!</p> <p>↳ 背中をトントンしたりして、寄り添ってあげる。</p>

図7 幼稚園の副園長先生から学んだことをまとめたフリップボード (Answer) (11月実施)

(2) 第2回目のQ&Aの記載内容について

第2回目のQ&Aは、11月に隣接する幼稚園の副園長先生と話す前にQuestionを考え、事後Answerとして、図7のようにフリップボードに学んだことをまとめて、グループやクラスみんなの前で発表した。幼児の心身の発達についてより深く理解するために、基本的な生活習慣に関することを軸として、幼稚園の副園長先生にお話を聞いたものである。表5は、生徒たちが班単位で考えた質問すべてである。

この内容から分かることは、「幼児とかかわるときに一番大切なこと」「基本的な生活習慣習得の過程で大切なこと」というように、幼児が育つ上で大切な、根幹になることを知りたいと考えていることである。基本的な生活習慣に関しても、具体的な例を出してその援助の方法を聞き、排泄の失敗についてどのように対処するとよいかというように、困難な状況に対してどうかかわるかという判断が問われるような質問をしていた。

そして、同様に「泣いている場合」「わがままな状況」「うそをつくことへの対応」など具体的な課題を提示した質問も考えていた。また「叱ること」「褒めること」というように、人が育つ上で、周囲の大人や家族の対応が問われ幼児との信頼関係の土台となる内容についても多くの班が質問として挙げていた。

Answer(図7)に関しては、幼稚園の副園長先生のお話だけではなく、自分自身が調べたことや、親へのインタビューを通して学んだことも関連させて、自分の考えをまとめた。そして、仲間との意見交流のために、伝えたいことのポイントをフリップボードに書いた。図7を見て分かるように、人が育つうえで大切なことをキーワードや短い文章にまとめている。長年幼児教育に携わって来られた副園長の先生のお話は納得するものが多く、その言葉をキーワードにまとめている生徒が多かった。さらに、副園長先生のお話から何を学んだかをワークシートの感想より分析してみる。

### 幼稚園の副園長先生のお話を聞いての感想

- ・教科書には載ってない、経験した人にしか分からないようなことをたくさん聞いて良かった。他のグループの人に話す時にしっかり伝えたい。今日聞いたことをこれからのペアさんとの交流に生かしたい。
- ・先生は幼児の成長のために色々なことを考えて幼児さんに接していることが分かった。幼児さんに接するのは大変だけど叱るときはちゃんと叱らないといけないと思った。それがちゃんと向き合うことだと思った。
- ・最後の金岡先生の言葉がずしりと響きました。私は最近よく家族と口げんかをします。でも、今の習慣が身につけているのは家族のおかげだと知りました。幼い頃から気がついてないだけでたくさんの配慮があったんだと今知りました。先生も親も祖父母もすべての支えがあつての自分の命です。自分の命は自分のもので何をたたく勝手と思っていたけど、自分の後ろにはたくさんの人がいることが実感できたのが今日の一番の学びです。
- ・今日の話聞いて、幼くても成長してもみんな「楽しい嬉しい悲しいさみしい」という感情があつて子どもも大切な人格を持っている。という言葉に感動しました。幼いからって大人の気持ちが分からないわけではなくて、感じるものだと分かりました。そして「面倒を見てあげる」のではなく「明るく楽しく伸び伸び心豊かに生活できる」というのが幼稚園の役割であつて、幼稚園のイメージが変わりました。
- ・金岡先生と話してみても、幼児についてよく分かったと思う。一人一人ちゃんとした自我を持っており、その上で行動していることは、大人や僕たちと一緒に、一人の人として接しているということにびっくりした。そして自分がこれまで考えていた幼児とは全く違っていた。これから幼児さんと接していく中でもっともって考えながら接さないといけないし、人格を尊重しながら一人の人としてもっと深くかかわらないといけないと思った。
- ・幼児さんを一人の人間として尊敬して接することは、ペア幼児さんのおうちの方にインタビューした時もおっしゃられていたので、決して子ども扱いばかりしてはいけないなと思いました。幼児も私たちと同じく自己主張を持っているのでとても大切なことだと思いました。基本的な生活習慣は5つすべて大事なことが分かりました。幼児の頃に身につけておくために周囲の大人は子供のやる気を起こさせるような声かけをしなければならぬんだなと感じました。マイナスな声かけよりもプラスの声かけの方がやる気を引き出すし、私たちもほめてもらった方が嬉しいのと同じだと思いました。

これらの感想からも、幼児の成長に関して大切なことを、深く考えた生徒が多いことが分かる。感想の内容で分類したところ表6のように、約70%以上の生徒が、幼児の成長に関して新た

な知識を得てさらには大切なことに気がついてきた。自分を見つめ、「命の尊さ」「家族への感謝」について深く考えた生徒もいた。

表6 感想の内容の分類

主な感想の内容	人数
幼児の生活習慣の習得に関して新たな知識を得た	23
幼児が成長していく上で大切なことに気がついた	26
自分のこれまでの成長や家族への感謝の気持ちを感じた	12
これからのペア幼児との交流に生かしたいと感じた	11
その他	5

### 6. 成果と課題

生徒たちの変容を、主にQ&Aの分析から考察した。生徒は、最初は目の前の幼児との活動について関心を持ち、それについての疑問を多く感じていた。しかし、保護者との話を通して、家族とのかかわりや生活の様子、子育ての喜びや苦勞などを聞くことで目の前の様子だけではなく、背景（生活の様子や親の思いなど）を知り幼児を多面的に見ることが出来た。さらに、自分の幼い頃と重ね合わせることができた生徒も多かった。そして、幼稚園の先生と話すことで、表4では、目の前の現象をとらえた回答が多かったが、幼児だけに注目するのではなく表5においては、環境とのかかわりで幼児を見ることが出来るようになった。仮説で述べたように、主体的・対話的な学びを意識して取り入れたことで、生徒が心を動かし、「人が育つために何が大切か」を自ら知ろうとしていたことが成果である。また、授業の学びをQ&Aという形にしたことで、それをまとめる過程で自ら学びを振り返り、「なぜか」「どのようにするとよいのか」という課題解決に向けて動く生徒の姿にも出会うことができた。

幼児とのふれあい体験学習は、幼稚園の先生方との連携を深め工夫することによって、その学びもより深くなる。Q&A集を学びのあしあととして来年度の生徒たちに伝えながら、今後もより深い学びを追求したい。

### 引用（参考）文献

- 1) 文部科学省(2016),『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm)
- 2) 伊藤葉子(2007),『中・高校生の家庭科の保育体験学習の教育的課題に関する検討, 日本家政学雑誌 Vol.58 No.6, 315-326.

# 要 約

中学校家庭科における「幼児とのふれあい体験学習」  
ーアクティブラーニングによる授業モデルの開発と実践ー

本研究は、中学校2年生の家庭科における「私たちの成長と家族 幼児とのふれあい」という題材名の授業において、課題を自ら解決する学習が可能なアクティブ・ラーニングを用いて、授業モデルを開発し、授業実践し、検証することを目的とする。

本研究で開発した「コミュニケーション能力を育成する授業モデル」は、次のような特徴を持つ。

- ① 幼児の保護者と生徒が直接的・間接的にかかわることによって、幼児の理解を深めた。
- ② 幼児とのふれあい体験の事後学習に「幼児とのふれあいQ&A集」を作成した。
- ③ 幼児の心身の発達をより深く理解するために、生徒は自分の家族や幼稚園教員と話し合い、課題を解決した。
- ④ 幼児とのふれあいを衣生活や食生活とも関連させた。

“Interactive Experiential Learning With Young Children” in Junior High School Home Economics courses: Developing and implementing a class model using active learning

The purpose of this study is to develop, put into practice and verify a class model that uses active learning, which allows students to solve problems on their own, in a Home Economics class for 8th grade students with the theme, “Our growth and family: Interaction with young children.”

The “Class model for nurturing communication skills,” developed in this study has the following characteristics.

- (1) Deepening the understanding of young children through direct and indirect involvement of young children’s parents and students.
- (2) Creating a “FAQ of interactions with young children,” in the post learning of the interactive practice with the young children.
- (3) Students having discussions with their families and kindergarten teachers and solving problems in order to have a better understanding of the mental and physical development of the young children.
- (4) The interactions with young children are also related to clothing and eating habits.